

横瀬夜雨 抄を詩人。明治十一年一月一日茨城県生れ、昭和九年二月十四日歿（二八六一九三）。本名虎壽、幼名利根丸。筆名おちうど、きん子、そご女、まや坊、やう、やめる人、わくらば、夜雨生、寶湖、寶湖生、寶湖釣人、山の入、新花守、海の入、花守、野ぶくれん、横瀬、横瀬利根丸、横瀬寶湖、横瀬生等。幼時何傷病し罹患。獨坐亂讀新體詩を雑誌『文庫』に投稿、民謡調を採入れて評價せられ、河井醉茗、伊良子清白と共に『文庫』に羽寫うばといはれた。後年歴史考證、世論史研究に専心。

著書『夕月』（明治二十五年十二月十八日旭堂書店）、『花守』（明治二十八年十一月一日隆文館）、『二十八宿』（明治四十年二月十日金尾文淵堂）、『夜雨集』（明治四十五年一月八日女子文壇社）、詩集『花守と二十八宿』（大正十年十一月一日婦女界社）、長塚節著『山鴛の渡』（編、大正十一年二月一日春日堂）、『明治初年の世相』（編、昭和二年十二月十二日新潮社）、『現代詩人全集・第四卷一横瀬夜雨集』河井醉茗抄（昭和四年十一月十五日新潮社）、『横瀬夜雨詩集』伊良子清白集（昭和四年十一月十八日改造社「改造文庫」）、『雪のしらべ』（中山省二郎編、昭和九年六月一日書物展望社）、『現代詩人全集・八一横瀬夜雨集』（昭和十年七月一日新潮社「新潮文庫」）、詩集『野の山ゆき』（小森盛編、昭和十二年五月十五日南北書園）等。